

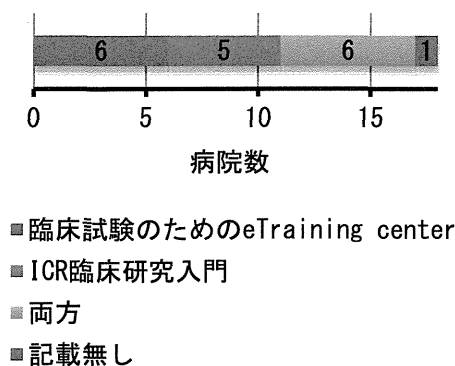


図19B. 案内しているe-learningシステムの名称

9. e-learningシステムの評価結果と改良

アンケート実施当時の対象ユーザー数は936人であった。アンケート実施期間における回答は55人、回答率は6%であった。地区別の回答者をみると図20の通りとなった。人口の多い東京が最多の17人で、次いで神奈川県と兵庫県のいずれも5件、愛知県の4件といずれも大都市が多かった。さらにオーストラリアのクイーンズランドから回答したユーザーが一人いた。

次いで回答した日を調査したところ、アンケートの開始をメールでアナウンスした初日の12月4日が最も多く32名(回答せずにアンケートを表示だけした人を含めると初日は186人)、であり、それ以降では各日も回答者は10名未満であり、土日はアクセスが少ない状況であった(図21)。

回答者が受講したコースについては、初級編が多く中でもCRC(初級)19人(35%)、医師(初級)18人(33%)が多かった(図22)。本e-learningを知ったきっかけは、「教師・同僚等からの紹介」が最も多く19人(35%)であったが、その他としてUMINからのお知らせがきっかけとなっている者も多くいた(図23)。受講したきっかけについては、

「知識・能力の向上のため」が最も多く44人(80%)と過半数を占めた(図24)。自分の職種や習得レベルにあった学習であるか否かについては、「とても良くてできた」15人(27%)、「少しできた」21人(38%)を合わせた36人(65%)と約2/3が肯定的な回答で、逆に「あまりできなかった」5人(9%)、「全くできなかった」1人(2%)と少数であった(図25)。興味や関心との一致度については、「とても一致していた」20人(36%)、「少し一致していた」が21人(38%)と合わせて41人(75%)と約3/4が肯定的意見で、「全く一致しない」という意見は0人であった(図26)。今後、学習や業務を進めていくために有益な情報を得ることができたかについては、「とても得られた」が19人(35%)、「やや得られた」24人(44%)を合わせて43人(78%)が肯定的で、「全く得られなかった」は0人であった(図27)。自分の学習状況を把握して、学習に役立てることができたかについては、「とても良くてできた」が12人(22%)、「少しできた」が27人(49%)と合わせて39人(71%)が肯定的で、やはり「全くできなかった」は0人であった(図28)。

なお学習のために必要な登録や設定については、「簡単だった」は12人(22%)と「あまり難しくなかった」の14人(25%)を合わせて26人(47%)と半数に満たず、「やや難しかった」が5人(9%)、「難しかった」が2人(4%)と合わせて7人(13%)となった(図29)。また使用したことのない機能として、「修了証」が32人(58%)、「評価」が31人(56%)と、課題をクリアするのが難しいことが示唆された(図30)。改善点としては「講義画面」が最も多く16人(29%)であり、それ以外の意見は2割未満であった(図31)。そして「動画再生や画面切り替えなどの速度や応答性について」は「普通」との答えが31人(56%)と半数以上を占めており、「快適」または「やや快適」と「やや不満」または「不満」はほぼ同数の2割程度であった(図

32)。

本e-learningシステムに対する全体的な満足度については、「普通」との答えが最も多く24人(44%)、そして「満足」11人(20%)、「やや満足」12人(22%)と合わせて23人(42%)であり、「不満」と回答する者はいなかった(図33)。また他の方に勧めるかについては、「勧める」が45人(82%)と8割を超えた(図34)。

他のe-learningサイトの利用については、「利

用したことがある」が46人(84%)と多いことがわかった(図35)。また他のe-learningサイトの利用者を対象に使い勝手を比較してもらったところ、「良い」が12人(27%)、「同等/どちらとも言えない」が28人(64%)と、勝るとも劣らぬといったところであった(図35-1)。そして本e-learningを継続する可能性について尋ねたところ肯定的な回答は52人(95%)であった(図36)。

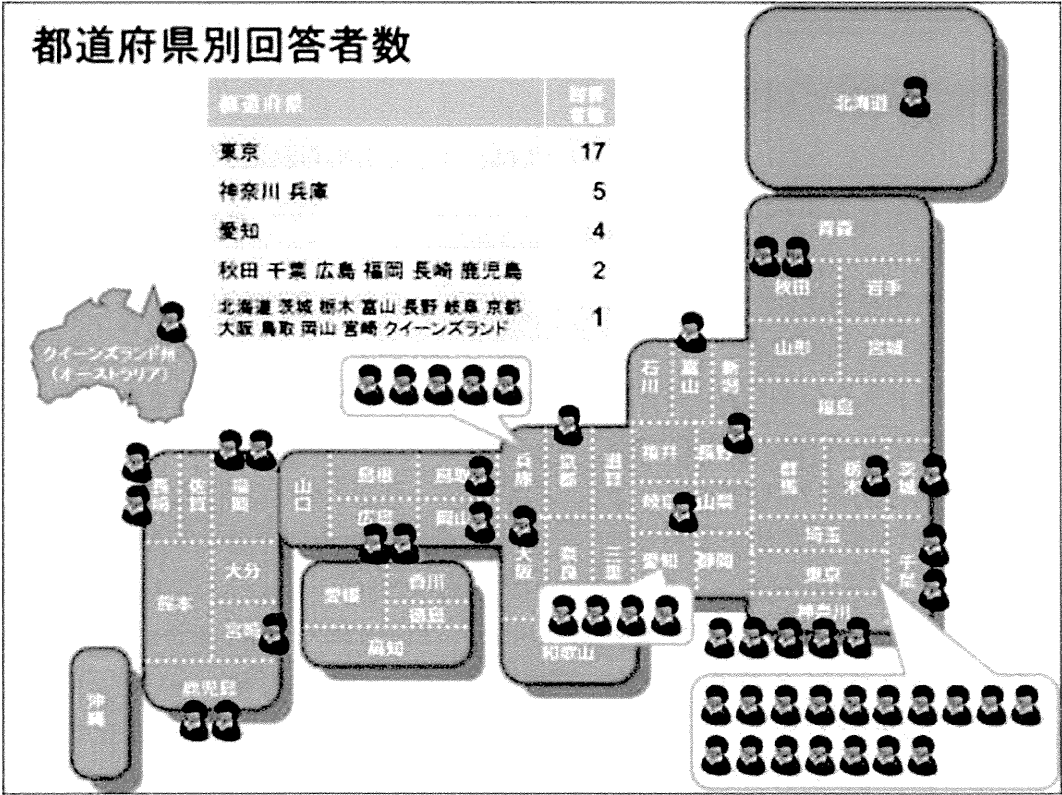


図20. アンケートの地区別回答者

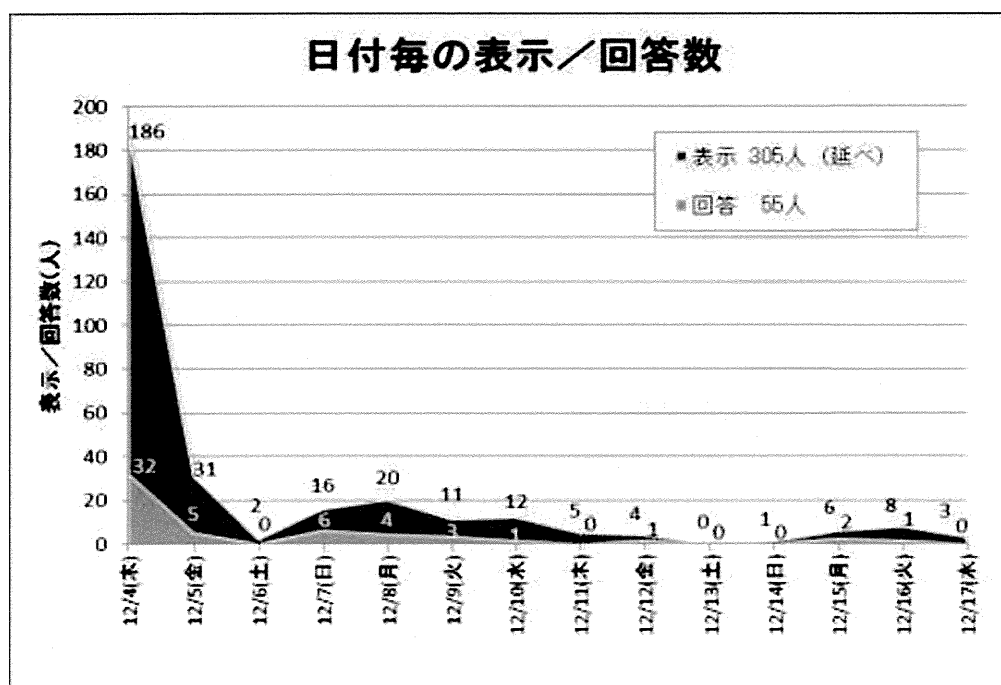


図21. 日付毎のアンケート画面の表示及び回答数

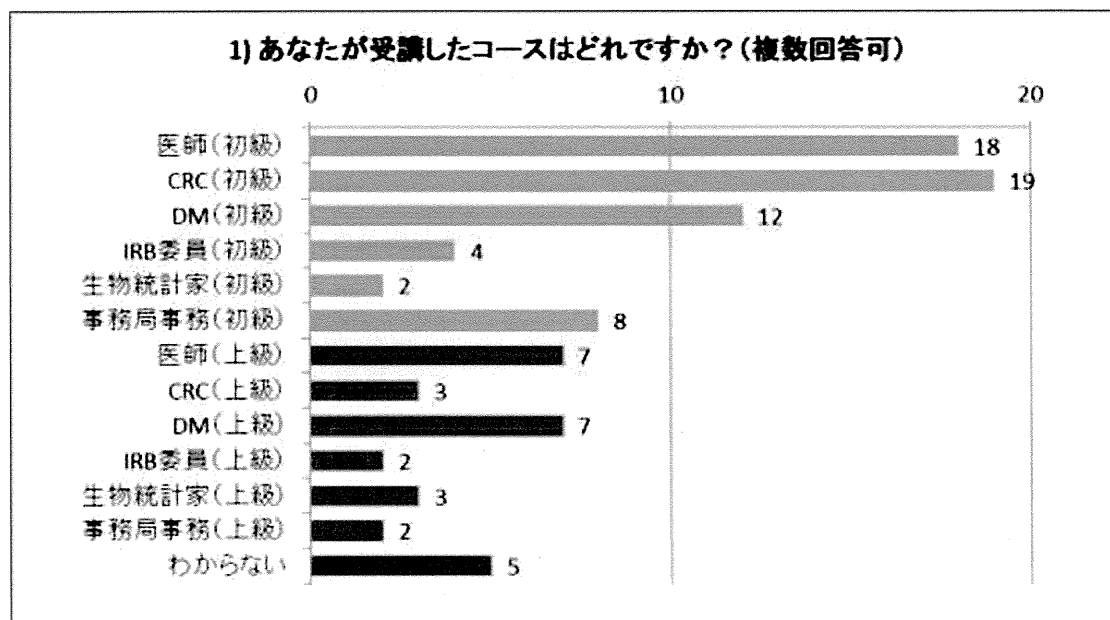


図22. アンケート回答者の受講コース

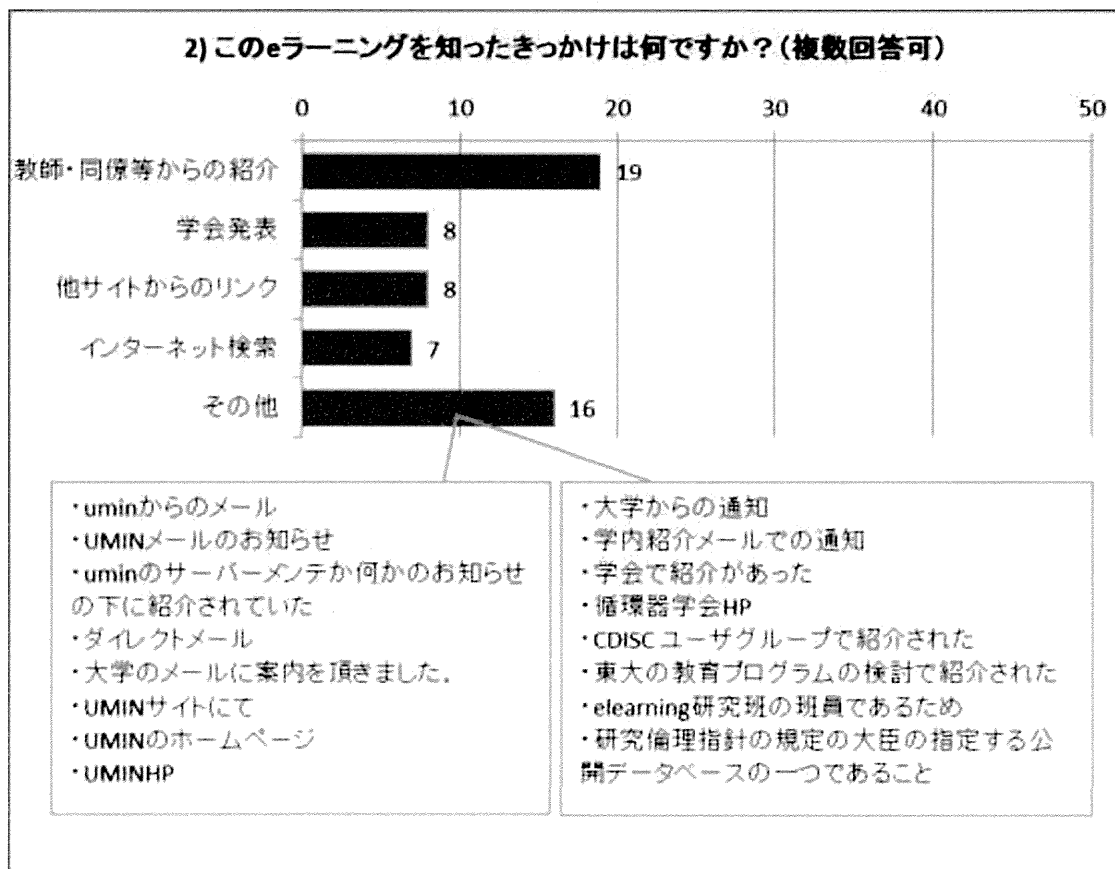


図23. 本e-learningを知ったきっかけ

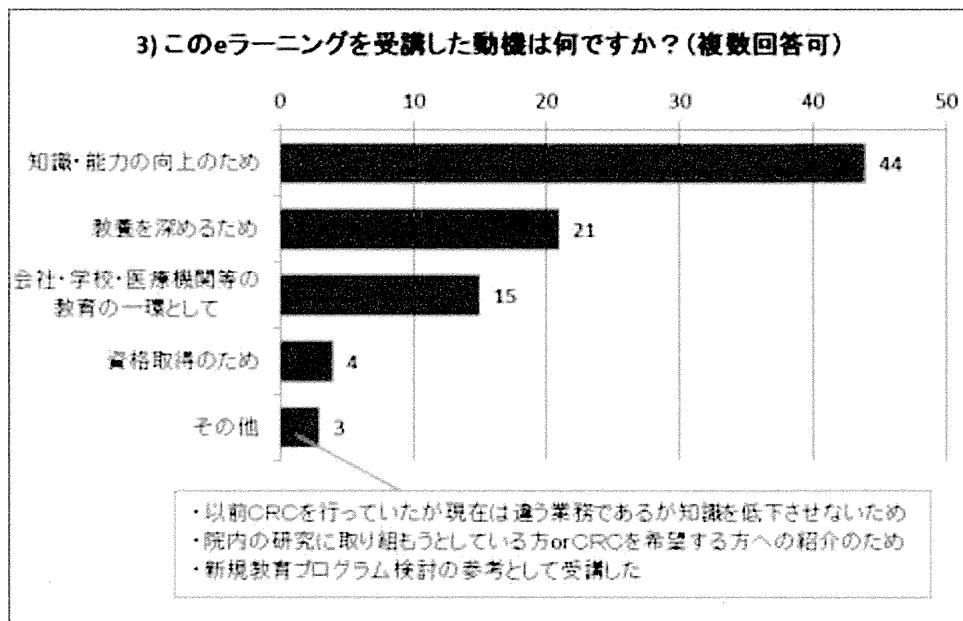


図24. 受講したきっかけ

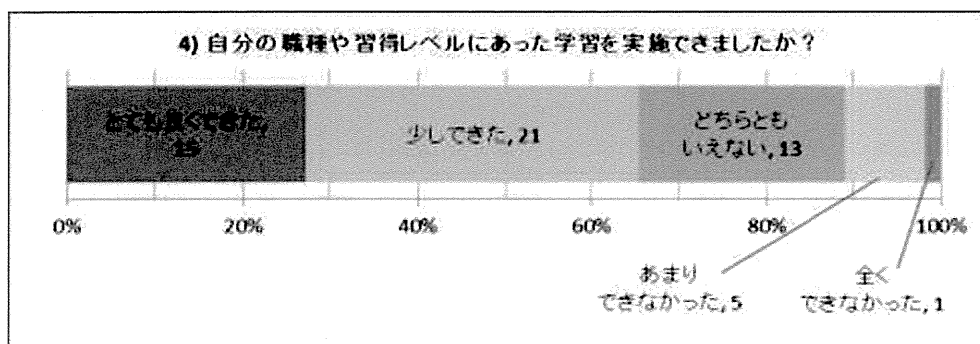


図25. 自分の職種や習得レベルにあった学習か？

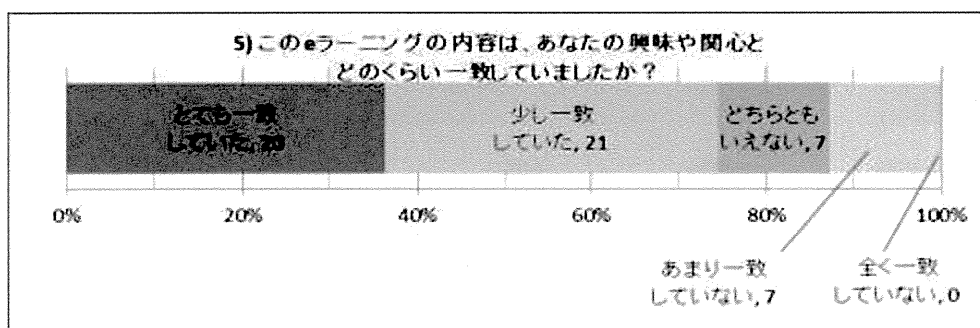


図26. 興味や関心との一致度

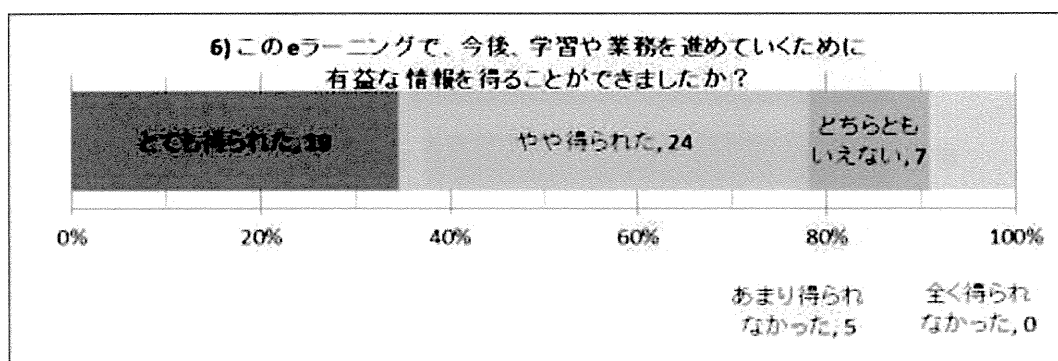


図27. 今後、学習や業務を進めていくために有益な情報を得ることができたか？

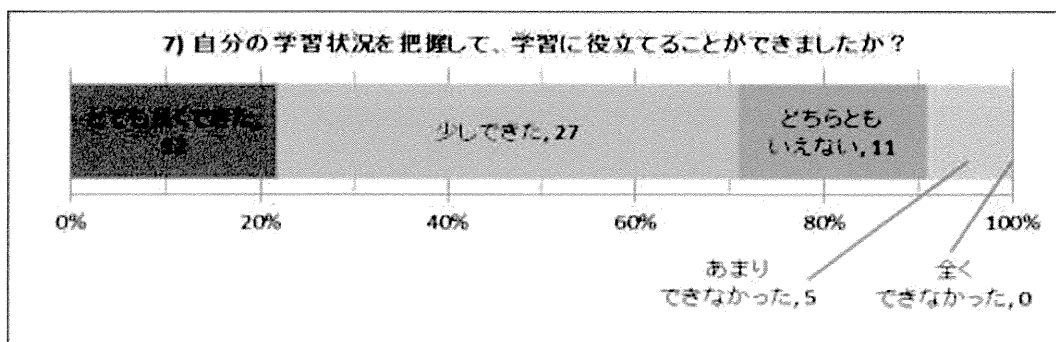


図28. 自分の学習状況を把握して、学習に役立てることができたか？

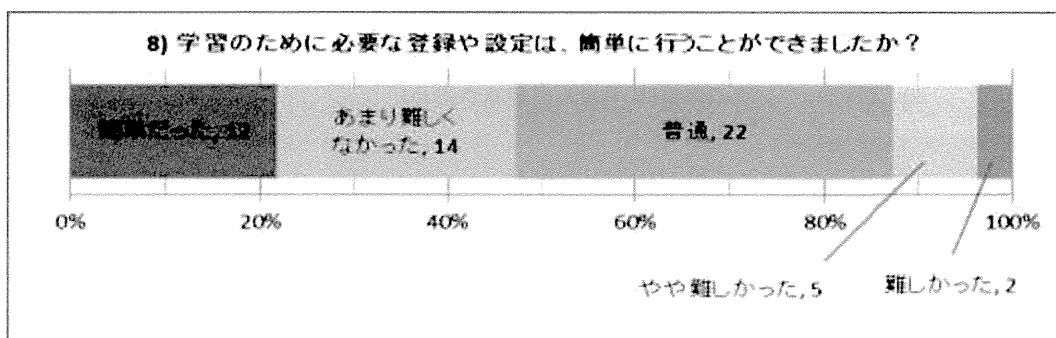


図29. 登録や設定について

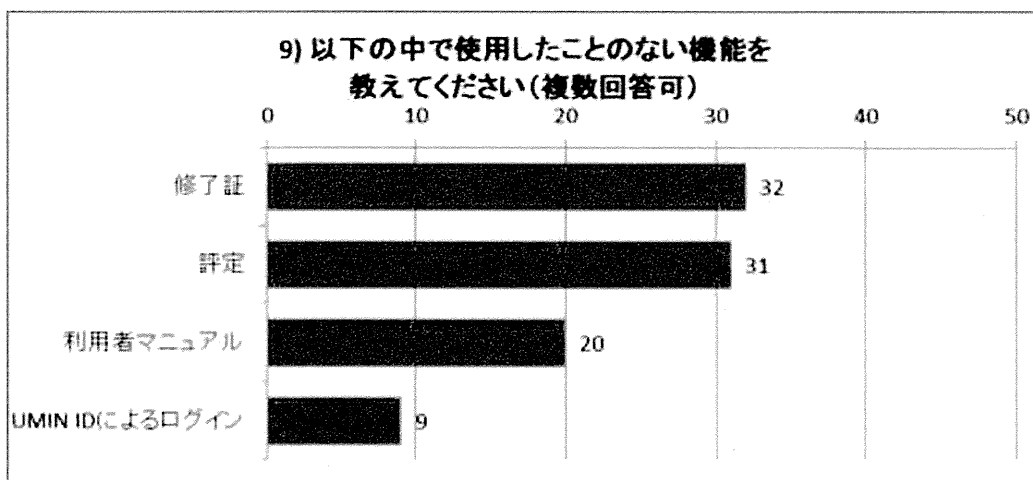


図30. 使用したことのない機能について

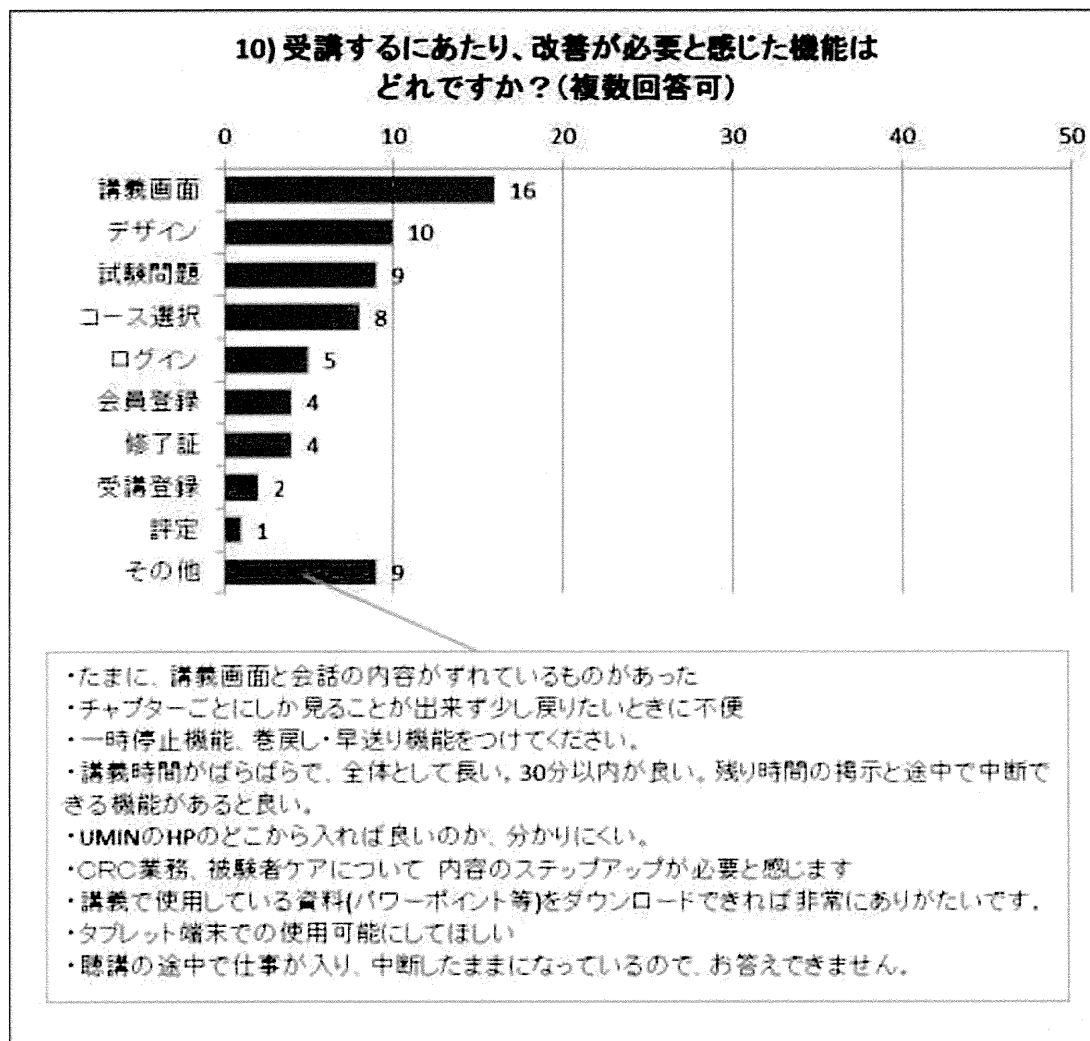


図31. 改善点として

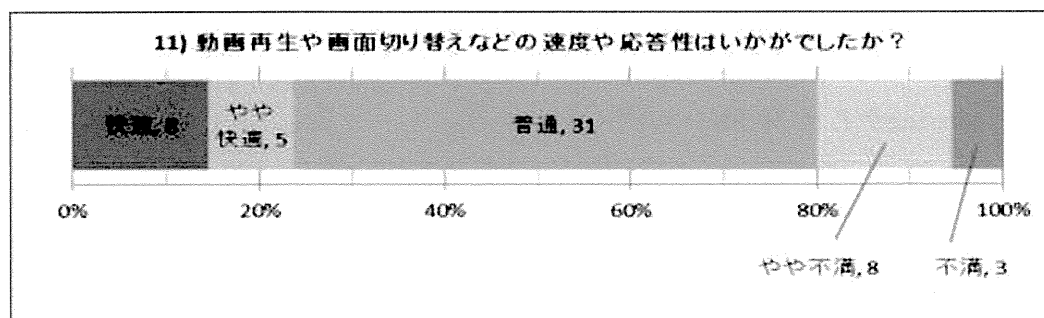


図32. 速度や応答性について

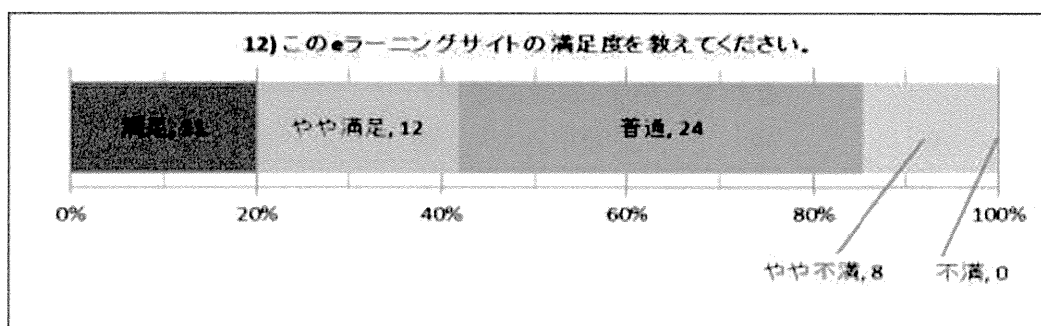


図33. 満足度について

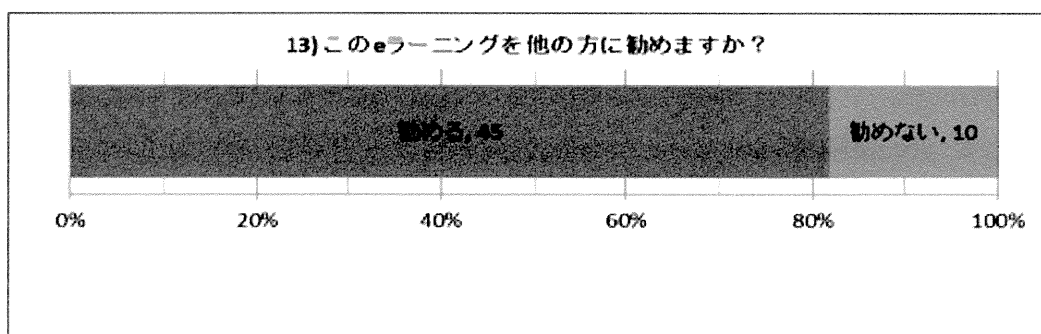


図34. 他の方へ勧めるかについて

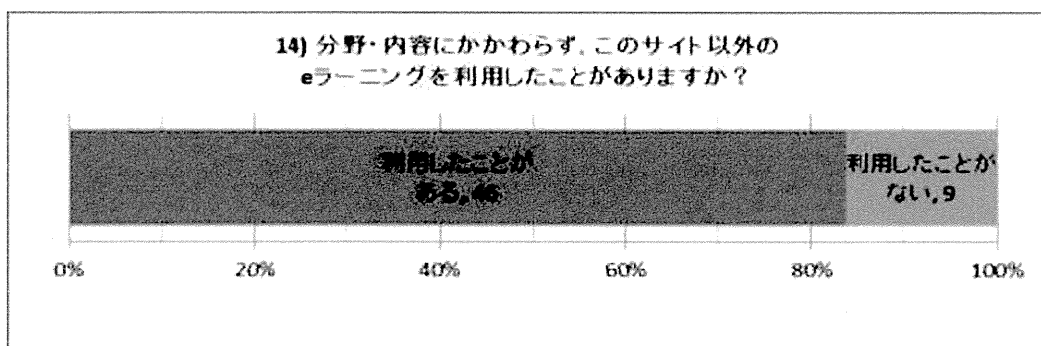


図35. 他のe-learningサイトの利用について

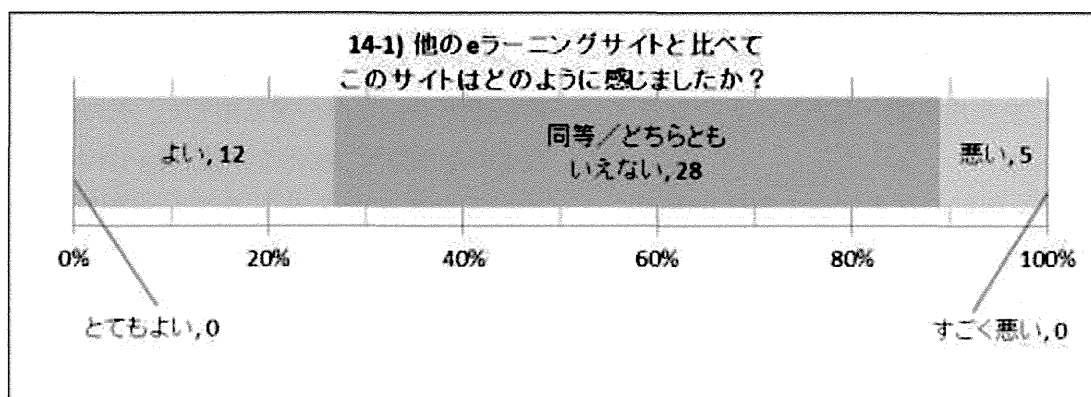


図35-1. 他のe-learningサイトとの比較（他のサイト利用者のみ回答）

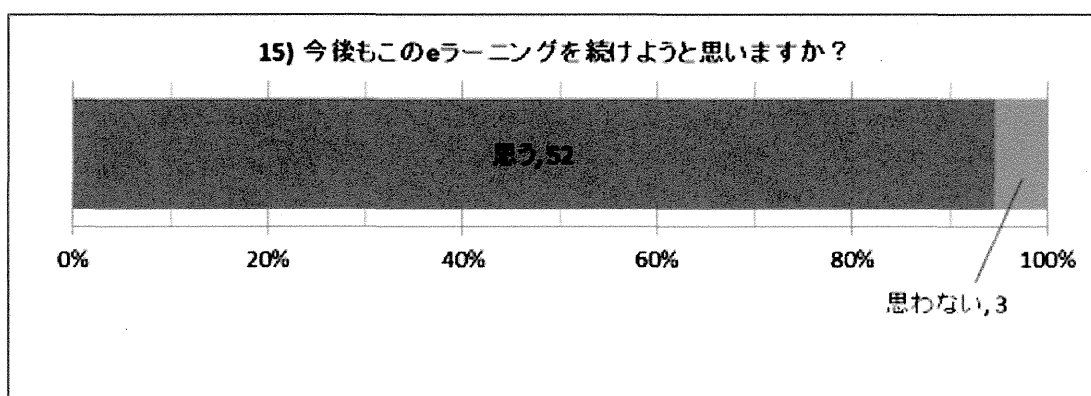


図36. 本e-learningを継続する可能性について

システムの利用状況からの分析では、平成27年2月末時点において、登録ユーザー数は1219人となった。そのうちコース登録数は898人(74%)、初級は852人（目標3000人の28%）、上級は244人（目標500人の49%）であった。受講者数としては全体で581人(48%)、初級は548人(64%)、上級は124人(51%)であった。さらに修了証発行数としては全体で110枚、初級80枚(15%)、上級30枚(24%)であった。

これら新規登録ユーザー数の時系列変化としては図37のように一般公開した平成26年2月から急激に増え、特にUMINから本e-learningの案内を郵送で出した平成26年7

月から8月にかけてと、UMINから電子メールで案内を出した平成26年11月から12月にかけてが大きく増えているが、平成27年の1月と2月を見ても100名前後の新規登録者があった。

そして新規訪問者に対して、新規登録者がどれくらいあったかを図38に示した。原点から各点の線分の傾きが高いほど、新規登録効率が上がっていることを意味する。平成26年の9月や10月に比べ、平成27年1月やさらに2月に新規登録率が上がっているが、これは平成27年1月にログインのヘルプページを作成し、さらに1月下旬にイラスト等を交えたページにしたこと、そして2月に

はログインの不具合を修正した（UMINのメールアドレスが無くてもシングルサインオン（SSO）を利用可能とした）ことによると考えられた。

ログイン認証のタイプ別の割合を図39に示した。ログインに成功した1219人のうち、UMINのSSOを利用してログインするものが61%占めた。またログインに成功してもどのコースにも登録していないユーザーが321人いたが、その内訳ではUMINのSSOによる割合が84%を占めた（図40）。

次にコース別の分析であるが、登録者数の最も多いコースは医師の初級編で401人と、次いで多いCRCの初級編239人を大きく引き離していた。一方、最も登録者の少ないコースはIRB委員の上級編33人、次いで事務局事務の上級編45人であった（図41）。しかしどの職種もどのレベルも受講者が存在した。登録コース数としては1つのコースにとどまる人が591人（66%）であったが、全コー

スに登録する者も4人いた（図42）。

地域別分析では、ユーザーのアクセス地域をIPアドレスから割り出した。その結果、日本のみならず、欧州や米国、オーストラリアからもアクセスがあることが判明した（図43）。また日本国内では全国にわたり、さらには離島からのアクセスがあることがわかった。

受講の継続性の観点からも分析を行った。図44は試験の受講回数と試験の平均点について散布図を示した。なお同一試験を複数回受験しても1回としてカウントした。その結果、試験の回数が少ないユーザーは試験点数が非常にばらついているが、試験回数の多いユーザーは平均点が高得点となっていく傾向があった。また修了証の発行状況をみたところ、最も多いのは医師の初級編32枚で、次いでCRC初級編の18枚であった（図45）。